

平成26年度私立幼稚園・私立小学校等の給食・牛乳の放射能測定結果

提供期間	品目	採取施設名	日数	摂取量(kg)	検査結果(Bq/kg) ※検出限界値:0.7Bq/kg			給食及び牛乳1週間分の放射性セシウムによる内部被ばくの実効線量(μSv)
					ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	
5月12日(月曜)から 5月16日(金曜)	給食	聖徳学園三田幼稚園	4	2.878	<0.7	<0.7	<0.7	0 ~ 0.04553 μSv未満
	牛乳		4	3.000	<0.7	<0.7	<0.7	0 ~ 0.04746 μSv未満
5月19日(月曜)から 5月23日(金曜)	給食	東洋英和女学院小学部	5	3.930	<0.7	<0.7	<0.7	0 ~ 0.06602 μSv未満
	牛乳		5	2.060	<0.7	<0.7	<0.7	0 ~ 0.03461 μSv未満
9月8日(月曜)から 9月12日(金曜)	給食	東洋英和女学院小学部	5	4.230	<0.7	<0.7	<0.7	0 ~ 0.07106 μSv未満
9月8日(月曜)から 9月11日(木曜)	牛乳		4	1.648	<0.7	<0.7	<0.7	0 ~ 0.02769 μSv未満
11月25日(火曜)から11 月27日(木曜)	給食	聖徳学園三田幼稚園	3	3.184	<0.7	<0.7	<0.7	0 ~ 0.05037 μSv未満
11月27日(火曜)	牛乳		1	0.180	<0.7	<0.7	<0.7	0 ~ 0.00285 μSv未満
1月26日(月曜)から1月 27日(火曜)、1月29日(木 曜)から1月30日(金曜)	給食	聖徳学園三田幼稚園	4	3.184	<0.7	<0.7	<0.7	0 ~ 0.05151 μSv未満
1月27日(火曜)	牛乳		1	0.180	<0.7	<0.7	<0.7	0 ~ 0.01582 μSv未満
3月9日(月曜)から 3月13日(金曜)	給食	東洋英和女学院小学部	5	3.660	<0.7	<0.7	<0.7	0 ~ 0.06149 μSv未満
3月10日(火曜)、3月12 日(木曜)から3月13日 (金曜)	牛乳		3	0.600	<0.7	<0.7	<0.7	0 ~ 0.01008 μSv未満

*各園・校で提供している給食のメニュー、食材・牛乳の産地及び原産地等については、各幼稚園・小学校にお問合せください。

*測定結果が検出限界値(0.7Bq/kg)未満の場合、内部被ばくの実効線量はセシウム134、137が、それぞれ0から検出限界値(0.7Bq/kg)まで含まれていたと仮定して計算しています。

*厚生労働省の新基準では、食品から許容することのできる放射性セシウムの線量を年間1mSv(ミリシーベルト)としています。この値は、食品の国際規格を作成しているコーデックス委員会の指標「年間1mSv」を超えないように設定されています。[1mSv = 1,000 μSv]

*摂取量とは、当該の1週間で摂取した総量で算出しています。(小学校は中学年を基準としています。)

*内部被ばくの実効線量とは、給食・牛乳に含まれる放射性物質(セシウム134及びセシウム137)により、人体が受ける放射線の影響を示すものでシーベルト(Sv)で表します。(ヨウ素131は半減期が短く、新基準値の対象外のため、実効線量の算出は行いません。)

*測定結果が検出限界値(0.7Bq/kg)未満の場合、内部被ばくの実効線量はセシウム134、137が、それぞれ0から検出限界値(0.7Bq/kg)まで含まれていたと仮定して算出しています。

【給食及び牛乳にかかる1週間分の実効線量の算出方法】

※実効線量の換算係数は「緊急時における食品の放射能測定マニュアル(厚生労働省、平成14年3月)」を参照しています。

〔換算係数〕	対象	セシウム134 (μSv/Bq)	セシウム137 (μSv/Bq)	備考
	幼児	0.013	0.0096	幼稚園児、保育園児の内部被ばくの実効線量算定に使用する換算係数。
	少年	0.014	0.010	小学生の内部被ばくの実効線量算定に使用する換算係数。
	青年	0.019	0.013	中学生の内部被ばくの実効線量算定に使用する換算係数。

●セシウム134:(検出値×摂取量×換算係数) + セシウム137:(検出値×摂取量×換算係数) = 実効線量